

令和6年度をふりかえって

社会福祉法人志和大樹会は平成11年3月に設立、平成12年4月に開所してから令和6年度は25年目の事業を終えました。職員は「目配り」「気配り」「思い遣り」を心に、サービスを利用している皆様が健康で安心して暮らせるように取り組んできました。

令和6年度の気候は、全国的に夏は局地的大雨と猛暑で北日本の平均気温は平年比較+2.3°Cとなりました。また、冬は地域によっては降雪量が多い年でありましたが、当地域は比較的気象条件に恵まれました。

事業運営に関しましては、入居者様の心身状態維持と悪化予防の健康管理を目指しました。4月は新たな嘱託医を迎え、夜間訪問看護の24時間連絡体制を整えました。このことにより、嘱託医、看護師、介護士及び訪問看護ステーション看護師による健康情報共有を行っております。6月からは看取り指針を定め家族の同意を得て進めて6年度は7名の入居者様を見取りました。また、7月以降入居者様の口腔衛生管理を新たな歯科医師と歯科衛生士により実施するとともに、訪問治療も行っております。

医療機関との連携体制につきましては、入居者様の急変時に適切な対応をとるため、新たに二つの協力医療機関と協定を締結しました。

業務改善の面では、介護従事者の身体的負担軽減と業務効率化を図るため、県の補助事業を活用して介護ロボット等を導入しました。このことにより施設内のワifiai環境が整備され、介護見守りシステムなどによる効果的な体調観察が出来るようになりました。また、整備の面では、デイサービスの送迎車両1台と、給食用のスチームコンベクションオーブンを更新し、グループホーム北の館の屋根塗装も行ない、安定した事業運営のための環境を整備しました。

事業収支は、職員が協力して入居者様の健康管理等に努めた結果、事業稼働率が伸びました。また、令和6年度の介護報酬改定で報酬が平均1.59%引き上げられました。その結果、事業活動の収入は4億5,578万円、支出4億4,176万円で収支1,381万円のプラスとなりました。今後とも単年度黒字を継続しつつ、全てのサービス利用者と地域の福祉事業の拠点施設としての使命を果たして参りますので、皆様のご支援とご協力を願い申し上げます。

社会福祉法人志和大樹会

理事長 細川 博明